

## 令和 5 年度水産白書の作成方針・スケジュールについて

## 1. 令和 5 年度水産白書について

- ・水産白書は、水産基本法第10条に基づき、「水産の動向及び政府が水産に関して講じた施策に関する報告」として毎年国会に提出されるもの（閣議決定）。
- ・令和 5 年度水産白書の内容は、以下の 3 部構成。
  - ① 令和 5 年度 水産の動向
  - ② 令和 5 年度に講じた水産施策
  - ③ 令和 6 年度に講じようとする水産施策

## 2. 作成方針

## (1) 「水産の動向」について

## 【基本的な考え方】

水産白書は、国民に対して水産をめぐる動向について情報提供する重要なツールであり、以下を基本としつつ各年度の最新の動きを適切に反映させることとする。

作成に当たっては、「分かりやすく」を旨とし、写真・図表、用語解説、コラム等を用いるとともに、簡明で平易な記述とし、昨年度に引き続きスリム化を行う。また、詳細な情報については、農林水産省Webサイト等のQRコードを付す。

## 【構成】

以下の 2 つの内容で構成する。

- ① 水産施策上重要な特定のテーマについて掘り下げて分析する「特集」
- ② 我が国水産業をめぐる一般的な情勢を分析する「一般動向編」

〈特集（案）〉<sup>うみぎょう</sup>海業による漁村の活性化

我が国の漁業生産量の長期的な減少、海洋環境の変化が続き、漁村では全国平均を上回る速さで人口減少や高齢化が進行しており、漁村が衰退している中、漁村の賑わいを創出していくことが重要な課題となっている。

漁村は豊かな自然環境、四季折々の新鮮な水産物、伝統文化、親水性レクリエーションの機会等様々な地域資源を有しており、漁村の交流人口は約 2 千万人と大きなポテンシャルがある中で、これらの地域資源の価値や魅力を活かした海業の振興により、水産物の消費増進や交流促進を図り、雇用機会の確保や地域の所得向上に繋げていくことが必要となっている。

このような状況において、令和 4 年 3 月に策定された「水産基本計画」において海業の取組の推進等が盛り込まれているとともに、令和 6 年 4 月からは漁港の活用促進等のため改正漁港漁場整備法が施行されるなど海業の取組の推進が図られている中、令和 5 年度の水産白書の特集では、海業の先行的な取組事例や推進のためのポイント、海業の推進のための制度・施策等について記述することとし

たい。

(別紙1は特集の構成案、別紙2は過去の特集テーマ)。

〈一般動向編(令和4年度以降の我が国水産の動向)〉

具体的な構成案は、以下のとおり。

第1章 水産物の需給・消費をめぐる動き

第2章 我が国の水産業をめぐる動き

第3章 水産資源及び漁場環境をめぐる動き

第4章 水産業をめぐる国際情勢

(第5章 安全で活力ある漁村づくり) ※

※ 特集の記載内容に応じ章立の構成を見直す場合がある。

第6章 東日本大震災からの復興

(2) 「水産施策」について

「令和5年度に講じた水産施策」及び「令和6年度に講じようとする水産施策」については、水産基本計画や予算等を踏まえて記述する。

3. 審議等のスケジュール

例年同様、5月下旬～6月上旬頃の閣議決定を目指して作業を進めることとする。なお、可能な限り「食料・農業・農村白書」、「森林・林業白書」及び「食育白書」と並行して作業を進めることとする。

	「水産の動向」	「水産施策」
5年9月	特集テーマ、作成方針、作成スケジュールの審議	
12月頃	骨子案の審議	
6年2月頃	一次案の審議	骨子案の審議、水産施策について諮問
4月頃	二次案の審議	水産施策(案)の審議
5月	答申	
5月下旬～6月上旬頃	閣議決定、国会提出、公表	

# 「特集」の構成案

## 特集

**テーマ：海業(うみぎょう)による漁村の活性化**

### 〈構成案〉

#### (1) 漁村をめぐる現状と役割

- ① 我が国の漁業生産量の長期的な減少、海洋環境の変化等が続く中、水産業をめぐる状況の変化を記述するとともに、漁村における人口減少や高齢化の進行等漁村をめぐる現状を記述する。
- ② 漁村における漁業の重要性や漁村の多面的機能等、地域を支える漁村の役割について記述する。
- ③ 豊かな自然環境、四季折々の新鮮な水産物、伝統文化、親水性レクリエーションの機会等漁村が有する地域資源について記述する。

#### (2) 海業による漁村活性化の取組

漁村が有する地域資源を活用して、水産物の消費増進や交流促進を図り、雇用機会の確保や地域の所得向上に寄与する海業の取組について、先行事例を紹介する。

#### (3) 海業の推進に向けて

海業推進のためのポイント、漁業との調和等の留意事項、制度、施策等を紹介する。

## これまでの水産白書の特集テーマ

### 【令和4年度】我が国の水産業における食料安全保障

ロシアのウクライナ侵略による我が国水産業への影響とその対応について、国際情勢の影響を受けた輸入水産物及び燃油・養殖用配合飼料等生産資材の価格上昇と対応、構造転換対策等水産業の食料安全保障の強化に向けた取組を記述。

### 【3年度】新たな水産基本計画（特集1）

平成14年以降に策定した水産基本計画を概観した上で、令和4年3月に閣議決定した新たな水産基本計画について記述。

#### 新型コロナウイルス感染症による水産業への影響と対応（特集2）

新型コロナウイルス感染症が水産物の需要と供給に与えた影響と、水産業における対応について記録・分析。

### 【2年度】マーケットインの発想で水産業の成長産業化を目指す

地域の強みを生かしたマーケットインの取組事例を手法ごとに紹介するとともに、マーケットインの取組を推進するために何が必要であるかについて記述。

### 【元年度】平成期の我が国水産業を振り返る

平成期における我が国水産業の変遷について振り返るとともに、令和の時代において、我が国の水産業が持続的に発展し、期待される機能を一層発揮していくためには何が必要であるかについて考察。

### 【平成30年度】水産業に関する人材育成 ～人材育成を通じた水産業の発展に向けて～

水産系の高等学校や大学等の取組や地域への連携・貢献等について分析するとともに、若手漁業者等の育成の取組を紹介しつつ、今後の人材育成の方向性について考察。

### 【29年度】水産業に関する技術の発展とその利用 ～科学と現場をつなぐ～

人工衛星等による観測技術や情報通信技術（ICT）の活用と、今後の方向性について掘り下げて考察。

### 【28年度】世界とつながる我が国の漁業 ～国際的な水産資源の持続的利用を考える～

世界の漁業の状況、国際情勢の変化、国際資源管理の枠組みと動向について分

析し、責任ある漁業国として持続的利用を確保するための方向性を考察。

#### 【27年度】活力ある漁村の創造と漁業経営

漁村の置かれた状況や漁業を取り巻く状況の中長期的な変化について分析し、漁業振興とそれを通じた漁村の活性化について、各地の取組事例を紹介しつつ、その課題と方向性を記述。

#### 【26年度】我が国周辺水域の漁業資源の持続的な利用

我が国周辺水域の漁業資源・漁場環境・漁業生産の推移と現状、我が国及び各国の資源管理の現状と課題等について分析し、漁船漁業の持続的発展における重要課題について提言。

#### 【25年度】養殖業の持続的発展

養殖業の意義・歴史・現状、養殖現場における経営・技術面での課題、販売面での取組と消費者の評価等について分析し、養殖業の持続的発展における重要課題について提言。

#### 【24年度】海のめぐみを食卓に ～魚食の復権～

水産資源を国民の食料として持続的に利用することの意義、水産物消費の現状や消費者のニーズ、関係者の様々な取組について記述。また、魚食普及・食育活動の重要性及び消費者ニーズに対応する生産・流通の重要性について提言。

#### 【23年度】東日本大震災 ～復興に向けた取組の中に見いだす我が国水産業の将来～

東日本大震災が水産業にもたらした被害の状況、復旧・復興に向けた政府及び自治体の対応、原発事故の影響と対応等について記述。被災地における復旧・復興の取組の実例を多く紹介。

#### 【22年度】私たちの水産資源 ～持続的な漁業・食料供給を考える～

平成23年度から「資源管理・漁業所得補償対策」がスタートしたこと等を踏まえ、資源管理の意義や我が国の資源管理制度の仕組み等を紹介。今後、水産資源の持続的利用を図っていく上での課題について記述。

#### 【21年度】これからの漁業・漁村に求められるもの

人口減少・高齢化の進行等様々な問題に直面している我が国の漁業・漁村について、その役割や位置づけを歴史的に振り返った上で、6次産業化の展開方向など将来の在り方について記述。

## 【20年度】新たな取組で守る水産物の安定供給（特集1）

我が国の水産業の体質強化を図り、将来にわたり国民に対し水産物を安定的に供給していく上で注目すべき最近の事例を取り上げながら、今後の方向について整理。

### 子どもを通じて見える日本の食卓～子どもをはぐくむ魚食の未来～（特集2）

魚離れが進む中、将来の魚食を担う子どもに焦点を当て、子どもをはぐくむ魚食を再構築していくために必要な課題を整理。

## 【19年度】伝えよう魚食文化、見つめ直そう豊かな海

我が国固有の魚食文化とそれを支えてきた海をめぐり生じている情勢の変化を分析。魚食文化を後世に伝え豊かな海の再生を図るために実施されている具体的な活動の例や、国民がそれぞれの役割と能力に応じて取り組むべき課題を記述。

## 【18年度】我が国の魚食文化を守るために

我が国では若年層を中心に「魚離れ」が進行。他方、世界的には水産物に対する需要が高まり「買い負け」も発生。こうした水産物の消費・供給をめぐる昨今の情勢を分析・紹介し、我が国の魚食文化を守るために取り組むべき課題を記述。

## 【17年度】消費者ニーズに応える産地の挑戦

水産物の消費・流通と消費者の購買行動や意識の変化について分析するとともに、消費・流通の環境が変化する中で、水産業の発展を図るために取り組むべき産地の販売力強化のキーポイントについて分析。

## 【16年度】近年の漁業経営をとりまく環境の変化と課題（特集1）

近年、厳しさを増している漁業経営の状況について解説し、影響要因として魚介類の消費動向や流通経路の変化について分析した上で、生産者がどのようなことに取り組んでいるかを記述。

### 漁村の現状と水産業・漁村の多面的機能（特集2）

水産業・漁村の多面的機能について具体的に記述。

## 【15年度】世界の水産物需給と我が国の水産物消費の変化をめぐって

我が国水産物市場が海外と結びつきを深めている中で、WTO、FTA等の国際交渉が活発になっていることから、世界の水産物需給の動向と我が国の水産物消費の変化と貿易等について記述。

## 【14年度】水産物の安全・安心を求めて

水産物の安全・安心の確保の重要性、安全性確保のための枠組み、消費者への積極的な情報提供のあり方等について記述。

**【13年度】水産資源の現状とその持続的利用に向けた課題**

我が国周辺の水産資源の現状、水産資源の減少の要因、水産資源の持続的利用に向けた課題等について記述。